

(様式第 10)

附総 第 523 号
平成 28 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 公立大学法人横浜市立大学
理事長 二見 良之 (印)

横浜市立大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
氏 名	公立大学法人横浜市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

横浜市立大学附属病院

3 所在の場所

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9	電話(045)787-2800
-----------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	○有 ・ 無					
内科と組み合わせた診療科名等						
1 神経内科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科							○有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名							
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○1精神科	○2小児科	○3整形外科	○4脳神経外科	○5皮膚科	○6泌尿器科	○7産婦人科
8産科	9婦人科	○10眼科	○11耳鼻咽喉科	○12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	○15麻酔科	○16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							○有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名							
1	2	3	4	5	6	7	
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
						21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
26床	0床	16床	0床	612床	634床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	405人	81人	419.9人	看 護 補 助 者	43人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	16人	1人	16.4人	理 学 療 法 士	11人	臨床検査技師	69人
薬 剤 師	42人	14人	55.1人	作 業 療 法 士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	0人	0人	0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	710人	47人	740.7人	臨 床 工 学 士	15人	医療社会事業従事者	0人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	2人	その他の技術員	4人
歯 科 衛 生 士	2人	3人	5人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	111人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	44人	そ の 他 の 職 員	25人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 28 年 8 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	37人	眼 科 専 門 医	9人
外 科 専 門 医	27人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	11人	放 射 線 科 専 門 医	12人
小 児 科 専 門 医	12人	脳 神 経 外 科 専 門 医	6人
皮 膚 科 専 門 医	5人	整 形 外 科 専 門 医	15人
泌 尿 器 科 専 門 医	8人	麻 酔 科 専 門 医	13人
産 婦 人 科 専 門 医	15人	救 急 科 専 門 医	7人
		合 計	186人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 相原 道子) 任命年月日 平成 28 年 4 月 1 日

統括安全管理者の業務経験を有する。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	550人	15人	565人
1日当たり平均外来患者数	1,818人	80人	1,898人
1日当たり平均調剤数	553 剤		
必要医師数	160人		
必要歯科医師数	2人		
必要薬剤師数	19人		
必要(准)看護師数	347人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要
集中治療室	195 m ²	鉄構造	病床数 : 8床 心電計 : ○有・無
			人工呼吸装置 : ○有・無 心細動除去装置 : ○有・無
			その他の救急蘇生装置 : ○有・無 ペースメーカー : ○有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 11.55~13.43 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数 11床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 32 m ² [共用室の場合] 共用する室名		
化学検査室	1278 m ²	鉄構造	(主な設備) 生化学多項目自動分析装置、検体前処理・搬送システム
細菌検査室	145 m ²	鉄構造	(主な設備) 自動細菌検査装置、全自動血液培養装置
病理検査室	312 m ²	鉄構造	(主な設備) 自動免疫染色装置、電子顕微鏡
病理解剖室	183 m ²	鉄構造	(主な設備) 解剖室2室、更衣室、安置室(冷蔵室)
研究室	14749 m ²	鉄構造	(主な設備) 動物実験センター、RIセンター、臨床研究棟
講義室	277 m ²	鉄構造	室数 2 室 収容定員 180 人
図書室	2398 m ²	鉄構造	室数 室 蔵書数 15万8600冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	86.9%	逆紹介率	59.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数	15,785人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,522人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2,494人	
	D: 初診の患者の数	21,020人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	胃癌に対するロボット支援型手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 胃癌に対する腹腔鏡下胃切除は1994年に本邦で初めて報告され、以後主に早期がんを対象にして、全世界に普及しつつある。その発展型である胃癌に対するロボット支援型手術は欧米・韓国にてその技術が開発され、2009年に初めて本邦に導入された。腹腔鏡手術と同様に開腹手術に比べ周術期管理において優位であるとされる。また、腹腔鏡手術の難易度を軽減できる。腹腔内感染症合併症が少ないなどの報告がある。しかし、現在胃癌に対する腹腔鏡手術は保険適用外であり、ロボット支援型手術が普及しているとは言えない本研究では従来の腹腔鏡手術と術中出血量、手術時間、退院までの期間と周術期の合併症、中長期の合併症と予後を比較検討する。			
医療技術名	直腸癌に対するロボット支援	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 大腸癌に対する腹腔鏡下手術は1991年に報告されて以降急速に普及し、現在は標準治療になりつつある。結腸癌における本邦の大規模比較試験JCOG0404 (StageII/III大腸癌に対する腹腔鏡 vs 開腹手術のランダム化比較試験)でも短期成績は腹腔鏡下手術の方が良好であった。一方、直腸癌に関しては本邦の前向き臨床試験でStage0/Iでの安全性は確認されているが、進行癌に対する腹腔鏡下手術の安全性は確立していない。一方、ロボットによる大腸手術は2002年に初めて報告され、本邦では2012年に保険適用となった前立腺摘出術をはじめ、泌尿器科・産婦人科、胃・大腸領域で施行されている。欧米におけるロボット手術と従来の腹腔鏡手術の比較では、ロボット手術において出血量、術後腸管運動改善、開腹移行率が低いことが報告されているが、本邦における大規模比較試験は行われていない。直腸癌におけるロボット支援型の有用性と安全性を本邦でも明らかにする。			
医療技術名	子宮悪性腫瘍に対するロボット支援型手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 婦人科疾患に対するロボット支援型手術は2006年頃から世界で本格的に導入され、子宮頸癌・体癌に対する子宮全摘出術に多くの症例で施行されている。また、開腹手術に比べ婦人科がんの周術期管理において優位であるとされ、子宮悪性腫瘍手術における根治性、出血量と入院期間に関しては、ロボット支援型手術は開腹手術と比較して出血量は有意に少なく、入院期間も短いと報告されている。しかし、子宮悪性腫瘍症例への腹腔鏡手術は、本邦ではIA期子宮体癌根治手術のみが保険適用であるため、保険適用外の子宮頸癌やIB期以上の進行体癌にロボット支援型手術を行うことは本邦の子宮癌患者へのメリットが大きいと考えられる。また、臨床研究としてロボット支援型手術の子宮悪性腫瘍手術における有用性と安全性を本邦でも明らかにし将来的な先進医療としての採択に貢献することを目的とする。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	ベーチェット病	213
2	筋萎縮性側索硬化症	39	57	特発性拡張型心筋症	25
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	1
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	23	60	再生不良性貧血	36
6	パーキンソン病	237	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	19	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	4	63	特発性血小板減少性紫斑病	47
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	20
11	重症筋無力症	104	66	IgA腎症	6
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	7
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	97	68	黄色靱帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	22	69	後縦靱帯骨化症	46
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	67
17	多系統萎縮症	41	72	下垂体性ADH分泌異常症	9
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	118	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	14	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	20	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	6
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	27
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	102
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	5
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	14
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	21
34	神経線維腫症	27	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	39	90	網膜色素変性症	28
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	12	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	48
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	40	95	自己免疫性肝炎	4
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	29
42	結節性多発動脈炎	20	97	潰瘍性大腸炎	113
43	顕微鏡的多発血管炎	30	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	12	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	5
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	14	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	19	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	348	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	170	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	147	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	54	107	全身型若年性特発性関節炎	7
53	シェーグレン症候群	9	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
54	成人ステル病	6	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	1
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	0
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウルジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・高度難聴指導管理料
・糖尿病合併症管理料	・がん性疼痛緩和指導管理料
・がん患者指導管理料1	・がん患者指導管理料2
・がん患者指導管理料3	・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・糖尿病透析予防指導管理料
・外来放射線照射診療料	・ニコチン依存症管理料
・がん治療連携計画策定料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・薬剤管理指導料	・地域連携診療計画加算
・医療機器安全管理料1	・医療機器安全管理料2
・医療機器安全管理料(歯科)	・歯科治療総合医療管理料
・持続血糖測定器加算	・遺伝学的検査
・HPV核酸検出およびHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・国際標準検査管理加算
・遺伝カウンセリング加算	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・胎児心エコー法	・ヘッドアップティルト試験
・皮下連続式グルコース測定	・長期継続頭蓋内脳波検査
・神経学的検査	・補聴器適合検査
・ロービジョン検査判断料	・コンタクトレンズ検査料1
・内服・点滴誘発試験	・センチネルリンパ節生検(片側)(併用法・単独法)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・画像診断管理加算1
・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・CT撮影及びMRI撮影
・冠動脈CT撮影加算	・心臓MRI撮影加算
・乳房MRI撮影加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来化学療法加算1	・無菌製剤処理料
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・がん患者リハビリテーション料
・歯科口腔リハビリテーション料2	・児童思春期精神科専門管理加算

・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・医療保護入院等診療料	・硬膜外自家血注入
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・透析液水質確保加算2	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・CAD/CAM冠	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)[乳房(再建手術)の場合に限る]	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・頭蓋内腫瘍摘出術(脳腫瘍覚醒下マッピング加算)	・脳刺激装置植込術(頭蓋骨内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・緑内障手術[緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)]
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・網膜再建術
・人工内耳植込術, 植込型骨導補聴器移植術および植込型骨導補聴器交換術	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算2)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・補助人工心臓
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術および腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・体外衝撃波胆石破碎術	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・生体部分肝移植術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・自己生体組織接着剤作成術
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・輸血管管理料(I)
・麻酔管理料(I)	・麻酔管理料(II)
・歯周組織再生誘導手術	・広範囲顎骨支持型装置埋込手術
・放射線治療専任加算	・外来放射線治療加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
看護における移動動作支援時の介助者・被介助者双方の最適動作支援技術の開発	根本明宜	医療情報部、リハビリテーション科学	5万円	補委 平成27年度科学研究費補助金基盤研究(c)(2014-2015)
革新的な地域医療マネジメントモデルの構築と評価に関する研究	根本明宜	医療情報部、リハビリテーション科学	40万円	補委 横浜市立大学平成25年度戦略的研究推進費(2013-2015)
国内で流行するHIVとその薬剤耐性株の動向把握に関する研究	上田敦久	血液・免疫・感染症内科学	150万円(H27年度分)	補委 日本医療研究開発機構(AMED)
HIV感染者を対象とした口腔癌の予防に関する研究	上田敦久	血液・免疫・感染症内科学	10万円	補委 日本学術振興会, 科学研究費補助金基盤研究C
急性骨髄性白血病における多角的微小残存病変評価方法の有用性に関する研究	宮崎拓也	血液・免疫・感染症内科学	33万円	補委 公益財団法人横浜学術教育振興財団研究助成
ベーチェット病新規感受性遺伝子ERAP1の機能解析を通じた脊椎関節炎治療法の開発	桐野洋平	血液・免疫・感染症内科学	546万円(H27年度分)	補委 科学研究費助成事業 若手A
成人スティル病におけるマクロファージの基礎・臨床からの統合的解析による病態解明	桐野洋平	血液・免疫・感染症内科学	91万円(H27年度分)	補委 科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究
ベーチェット病におけるM2マクロファージ機能不全とその修復による治療戦略	桐野洋平	血液・免疫・感染症内科学	20万円(H27年度分)	補委 科学研究費助成事業 基盤B
O-GlcNAc転移酵素による造血幹細胞機能のエピゲノム制御	中島秀明	血液・免疫・感染症内科学	140万円(H27年度分)	補委 科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究
ヘムオキシゲナーゼ1とM2マクロファージから見たループス腎炎の病態解析	浜真麻	血液・免疫・感染症内科学	117万円(H27年度分)	補委 文部科学省, 平成26年度科学研究費助成事業 若手研究B
NaF-PETを用いた関節モデルにおける骨修復の解明	峯岸薫	血液・免疫・感染症内科学	195万円(H27年度分)	補委 学術研究助成基金助成金 若手B
ユビキチン化修飾系を治療標的とする膠原病の新規治療法の可能性について	吉見竜介	血液・免疫・感染症内科学	117万円(H27年度分)	補委 日本学術振興会, 科学研究費補助金基盤研究C
ユビキチン化修飾系を治療標的とする膠原病の新規治療法の探索	吉見竜介	血液・免疫・感染症内科学	100万円(H27年度分)	補委 横浜総合医学振興財団, 推進研究助成
肥満症に対する漢方薬治療の機序解明および新規抗肥満薬の開発	小豆島健護	循環器・腎臓内科学	50万円	補委 横浜総合医学振興財団
尿細管性機序に基づく食塩感受性・高血圧症の分子病態の解明と展開	石上友章	循環器・腎臓内科学	150万円	補委 日本学術振興会

小計15

動脈硬化症における炎症の永続性をもたらす自己抗体を介する自己免疫基盤の解明と診療への応用	石上友章	循環器・腎臓内科学	100万円	補委	日本学術振興会
ゲノムワイド解析から同定した新規高血圧遺伝子:ATP2B1,LPTN1の機能解析	梅村敏	循環器・腎臓内科学	260万円	補委	日本学術振興会
血圧感受性遺伝子ATP2B1の血圧および臓器障害に与える影響に関する研究	梅村敏	循環器・腎臓内科学	5万円	補委	日本学術振興会
腎障害の進展における受容体結合型腎保護分子の病態生理学的意義の検討	大澤正人	循環器・腎臓内科学	143万円	補委	日本学術振興会
老化促進受容体への結合因子に着目した老化関連心血管病の病態解明と病態制御の試み	金岡知彦	循環器・腎臓内科学	80万円	補委	日本学術振興会
ゲノムワイド解析から同定した新規高血圧遺伝子:ATP2B1,LPTN1の機能解析	小林雄祐	循環器・腎臓内科学	10万円	補委	科学研究費助成事業平成27年度科学研究費補助金基盤研究(B)
アンジオテンシン変換酵素2によるアミノ酸吸収制御とアミノ酸欠乏性貧血および腎性貧血の原因解明	鈴木将太	循環器・腎臓内科学	40万円	補委	日本学術振興会
受容体結合因子を介した選択的受容体機能調節による慢性腎臓病での高血圧・腎障害制御	田村功一	循環器・腎臓内科学	130万円	補委	日本学術振興会
老化促進受容体への結合因子に着目した老化関連心血管病の病態解明と病態制御の試み	田村功一	循環器・腎臓内科学	10万円	補委	日本学術振興会
老化促進受容体への結合因子に着目した老化関連心血管病の病態解明と病態制御の試み	戸谷義幸	循環器・腎臓内科学	10万円	補委	日本学術振興会
血圧概リズム制御に関わる脂質代謝調節因子の病態解明と治療戦略の開発	藤田恵美	循環器・腎臓内科学	40万円	補委	平成27年度横浜総合医学振興財団わかば研究助成
ゲノムワイド解析から同定した新規高血圧遺伝子:ATP2B1,LPTN1の機能解析	谷津圭介	循環器・腎臓内科学	10万円	補委	日本学術振興会
高血圧感受性遺伝子ATP2B1の血圧および臓器障害に与える影響に関する研究	谷津圭介	循環器・腎臓内科学	5万円	補委	日本学術振興会
受容体結合型脳保護分子に着目した認知症の病態解明	涌井広道	循環器・腎臓内科学	208万円	補委	日本学術振興会
カルシウム輸送蛋白PMCA1による腎保護効果の検討	涌井広道	循環器・腎臓内科学	100万円	補委	横浜総合医学振興財団
アンジオテンシン受容体結合分子に着目した認知症の治療戦略	涌井広道	循環器・腎臓内科学	100万円	補委	公益財団法人万有生命科学振興国際交流財団
PMCA1に着目した慢性腎臓病の治療開発	涌井広道	循環器・腎臓内科学	200万円	補委	公益財団法人上原記念生命科学財団

ANXA4サブタイプの機能解析に基づく卵巣明細胞腺癌の抗がん剤耐性克服戦略の研究	宮城悦子	がん総合医科学	100万円	補委	日本学術振興会
子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	宮城悦子	がん総合医科学	100万円	補委	日本医療研究開発機構(革新的がん医療実用化研究事業), 日本医療研究開発機構(AMED), 委託
HPVワクチンの有効性と安全性の評価のための大規模疫学研究	宮城悦子	がん総合医科学	500万円	補委	日本医療研究開発機構(革新的がん医療実用化研究事業), 日本医療研究開発機構(AMED)
臨床データ・生体サンプルを用いたバイオ医薬品の薬理作用評価法・予測法の開発	市川靖史	がん総合医科学	200万円	補委	日本医療研究開発機構(医薬品等規制調和・評価研究事業)
大動脈発症機序に関する遺伝子解析を中心とした統合的解析と治療適応の確立	益田宗孝	心臓血管外科	150万円	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)(2014-2016年度)
大動脈疾患における弾性線維形成異常の臨床的解析	鈴木伸一	心臓血管外科	120万円	補委	文部科学省科学研究費 基礎研究(C)(2013-2015年度)
心臓弁膜症に対する外科治療戦略 - 人工弁置換術後の遠隔成績 -	郷田素彦	心臓血管外科	100万円	補委	横浜総合医学振興財団 心臓疾患研究助成
胃癌のバイオマーカーによるリスク層別化キットと低分子抗癌剤の開発	大島 貴	消化器外科	110万円	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)(2014年-2016年度)
甲状腺未分化癌の抗癌剤効果予測とヒストン修飾に対する治療法確立を目指した発現解析	菅沼伸康	乳腺甲状腺外科	110万円	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)(2014-2016年度)
網羅的行動テストバッテリーを用いた麻酔薬の新規効能探索	後藤隆久	麻酔科学	300万円	補委	日本学術振興会
多面的記憶テストバッテリーを用いた麻酔薬の記憶忘却作用の検討	後藤隆久	麻酔科学	110万円	補委	日本学術振興会
超短時間麻酔薬曝露モデルにおける幼若ラットの認知記憶障害の検討	藤本寛子	麻酔科学	90万円	補委	学術研究助成基金助成金 若手研究(B)(平成25年度～平成27年度)
肺胞上皮細胞における低酸素誘導性因子の機能解析と肺傷害治療開発に向けた基盤研究	東條健太郎	麻酔科学	150万円	補委	日本学術振興会
敗血症性多臓器不全に向けた基盤研究:HIF-1による組織代謝制御の解明	山口修	麻酔科学	170万円	補委	日本学術振興会
低酸素誘導性因子HIF活性化による肺胞上皮細胞保護効果の検討	高木俊介	麻酔科学	70万円	補委	日本学術振興会
β アドレナリン受容体刺激におけるタンパクのニトロソ化の役割	入江友哉	麻酔科学	70万円	補委	日本学術振興会
VPAC2アゴニスト発現ベクター構築と肺高血圧治療	水野祐介	麻酔科学	100万円	補委	日本学術振興会

VIP受容体VAPAC2選択的アゴニストを用いた肺高血圧症治療	川上裕理	麻酔科学	120万円	補委	日本学術振興会
エコチル調査	平原史樹	産婦人科学	1億5000万円	補委	環境省子どもの健康と環境に関する全国調査
生殖・先天異常ならびに周産期異常における葉酸・葉酸代謝の果たす役割に関する研究	平原史樹	産婦人科学	90万円	補委	日本学術振興会
福島県内外での疾病動向の把握に関する調査研究 福島県内外での疾病動向の把握に関する調査研究	平原史樹	産婦人科学	933万円(代表一括)	補委	環境省
出生前診断における遺伝カウンセリング及び支援体制に関する研究	平原史樹	産婦人科学	500万円(代表一括)	補委	厚生労働科学研究費(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)
ANXA4サブタイプの機能解析に基づく卵巣明細胞腺癌の抗がん剤耐性克服戦略の研究	宮城悦子	産婦人科学	100万円	補委	日本学術振興会, 学術研究助成基金助成金
子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	宮城悦子	産婦人科学	100万円	補委	日本医療研究開発機構(革新的がん医療実用化研究事業), 日本医療研究開発機構(AMED)
HPVワクチンの有効性と安全性の評価のための大規模疫学研究	宮城悦子	産婦人科学	500万円	補委	日本医療研究開発機構(革新的がん医療実用化研究事業), 日本医療研究開発機構(AMED)
子宮平滑筋腫が巨大に発育する分子生物学的機序に関する研究	佐藤美紀子	産婦人科学	120万円	補委	日本学術振興会, 学術研究助成基金助成金
先天性心疾患に合併するチアノーゼ性腎症の発症機序の解明	伊藤秀一	小児科学	100万円(H27年度分)	補委	科学研究費助成事業基盤研究(C), (H25-27年度)
腎・泌尿器系の希少・難治性疾患群に関する診断基準・診療ガイドラインの確立	伊藤秀一	小児科学	60万円(H27年度分)	補委	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業), (H26-28年度)
自己炎症性疾患とその類縁疾患の診断基準, 重症度分類, 診療ガイドライン確立に関する研究	伊藤秀一	小児科学	60万円(H27年度分)	補委	厚生労働科学研究費補助金, 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業), (H27-28年度)
小児難治性ネフローゼ症候群に対する新規治療法の開発を目指した全国多施設共同臨床試験	伊藤秀一	小児科学	250万円	補委	平成27年度日本医療研究開発機構研究費(AMED)・臨床研究・治験推進研究事業
周産期医療における新生児医療に携わる医師の養成に係る研修プログラムに関する研究	西巻滋	小児科学	598万円	補委	医師確保・地域医療力向上事業補助
未熟児特有のアミノ酸代謝に基づいた動脈管開存症を軽減しうるアミノ酸輸液組成の検討	藤田秀次郎	小児科学	481万円	補委	科学研究費助成事業 基盤研究◎
PET-CT等による定量的医学画像診断手法の確立とコンパニオン診断への応用	井上登美夫	放射線医学	525,000円	補委	平成27年度 科学研究補助金 基盤研究(B)
新規低酸素病態イメージング核種を用いたがん幹細胞診断PETの開発に関する研究	井上登美夫	放射線医学	10万円	補委	平成27年度 学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究

ベーチェット病に関する調査研究	水木信久	眼科学	1733000円	補委	厚生労働省科学研究費
基盤研究 B 次世代シーケンサーを用いた遅発型発達緑内障多発家系によるエクソーム解析	水木信久	眼科学	31万円	補委	日本学術振興会
基盤研究 C 網膜格子状変性の発症に関わるCOL4A4遺伝子の詳細なゲノム解析	西出忠之	眼科学	50万円	補委	日本学術振興会
基盤研究 C HLA関連眼疾患におけるゲノム全域を対象とした遺伝子間相互作用の検討	安村玲子	眼科学	110万円	補委	日本学術振興会
若手研究B Imputation法を利用したサルコイドーシスのゲノムワイド関連解析	目黒明	眼科学	100万円	補委	日本学術振興会
基盤研究 B ゲノムワイド解析から同定した新規高血圧遺伝子:ATP2B1,LPIN1の機能解析	水木信久	眼科学	10万円	補委	日本学術振興会
基盤研究 C 人犬共通の緑内障感受性遺伝子SRBD1の詳細なゲノム解析	水木信久	眼科学	50万円	補委	日本学術振興会
若手研究B大規模データを用いた屈折変化量の解析	山根敬浩	眼科学	150万円	補委	日本学術振興会
口腔癌に対するICGを用いた光線力学温熱療法の開発	飯田昌樹	口腔外科学	156万円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)
磁性体造影剤(SPIO)を用いた口腔癌センチネルリンパ節の同定と転移の検索	岩井俊憲	口腔外科学	150万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
先端医科学研究センターにおける医療応用を目指した開発型研究。内視鏡を用いた低侵襲な歯科・口腔外科治療の普及を目指したファイバースコープシステムとバーチャルシミュレーターの開発	岩井俊憲	口腔外科学	76.1万円	補委	横浜市立大学戦略的研究推進費
顎矯正手術後の睡眠呼吸障害を考慮した新しい数値流体解析を用いた治療計画の確立	大村進	口腔外科学	110万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
口腔癌再発を導く骨髄CD11b+単球細胞の分化機構とその役割	來生知	口腔外科学	398万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
口腔癌幹細胞の難治性に関わるエピゲノム解析	來生知	口腔外科学	143万円	補委	文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
温熱療法とIL-1阻害薬の併用療法の開発	小栗千里	口腔外科学	156万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
造影剤リゾビストを用いた温熱療法とセツキシマブ併用による口腔癌治療の開発	小泉敏之	口腔外科学	100万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
頸部リンパ節転移に対する既存抗癌剤の磁性化薬を用いた新規治療法の開発	佐藤格	口腔外科学	195万円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究

口腔癌におけるMDSCをターゲットにした分子標的薬の研究	佐藤有紀	口腔外科学	247万円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究
口腔癌転移に関わるエピゲノム解析	滋野康子	口腔外科学	221万円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究
HIV感染者を対象とした口腔癌の予防に関する研究	筑丸寛	口腔外科学	120万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
進行口腔癌の原発及び頸部リンパ節転移に対する陽子線治療効果の解明	高山香名子	口腔外科学	150万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
進行口腔癌に対する超選択的動注法のための新しい血流維持型血管内視鏡の開発	藤内祝	口腔外科学	190万円	補委	文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
磁性抗がん剤を用いた医療機器の開発	藤内祝	口腔外科学	100万円	補委	AMED
口腔がんに対する磁性抗がん治療薬の実用化	藤内祝	口腔外科学	200万円	補委	AMED
口腔扁平上皮癌および間葉系間質細胞による免疫抑制機構とスタチン系薬剤の修飾作用	藤内祝	口腔外科学	7万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
臨床応用に向けた温熱療法と分子標的薬の併用療法の開発	中島英行	口腔外科学	247万円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究
骨形成促進チタンファイバー綿製ブロックによる顎骨再建シミュレーション	廣田誠	口腔外科学	60万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
口腔顎顔面領域におけるICGを用いた蛍光ナビゲーション手術の確立	不破信和	口腔外科学	140万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
新規磁性抗がん剤を用いた口腔癌の遠隔転移に対する温熱免疫化学療法の開発	光藤健司	口腔外科学	100万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究
口腔癌に対する超選択的動注治療法への分子標的薬の応用	光永幸代	口腔外科学	195万円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究
乳癌化学療法における口腔粘膜障害、味覚障害と唾液分泌量との関連についての検討	光永幸代	口腔外科学	50万円	補委	平成27年度かながわ県立病院がん基金
非侵襲的陽圧換気を使用した体力・健康増進に有効な運動方法の開発	中村健	リハビリテーション科学	4,810,000円 (1,850,000円)	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C (平成27年度～平成29年度)
車いすスポーツアスリートの肘障害実態調査による車いすスポーツ肘障害の予防に関する研究	中村健	リハビリテーション科学	1,000,000円	補委	公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団 (平成27年度)
スモン患者の自律神経機能と運動能力に関する研究	水落和也	リハビリテーション科学	100万円	補委	厚生労働省科学研究費補助金

多発性骨髄腫に対する自家造血細胞移植後療法とMRDおよび予後の検討	山崎悦子	臨床検査部	100万円	補委	奨学寄附+L205金(2015年-2017年)
肝癌幹細胞維持および悪性化に関わるシグナル分子の解析.	前田慎	消化器内科学	380万円	補委	平成27年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (B), (H25~27年度)
非コード反復列RNAの発現を主因とした多段階発癌の発癌機構の解明と制御.	前田慎	消化器内科学	10万円	補委	平成27年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (B), (H25~27年度)
炎症性腸疾患における線維化機序解明と分子標的治療への応用.	芝田渉	消化器内科学	150万円	補委	平成27年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C), (H26~28年度)
肝癌幹細胞維持および悪性化に関わるシグナル分子の解析.	芝田渉	消化器内科学	5万円	補委	平成27年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (B),(H25~27年度)
肝癌治療標的としてのストレス関連遺伝子HSF1シグナルの解析.	中馬誠	消化器内科学	140万円	補委	平成27年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C), (H26~28年度)
次世代シーケンシング・ゲノムワイド関連解析を用いたC型肝炎治療に伴う肝病態進展軽快, 肝癌に関わる宿主因子の解析.	中馬誠	消化器内科学	38万円	補委	平成27年度 日本医療研究開発機構(AMED)受託研究費,(H25~27年度)
若年潰瘍性大腸炎患者への服薬アドヒアランス向上プログラムの洗練と有効性の検討.	川上明希	消化器内科学	100万円	補委	平成27年度 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究活動スタート支援,(H26~27年度)
我が国における Idiopathic Slow Transit Constipation の疫学・診断・治療の実態調査.	中島淳	肝胆膵消化器病学	102万円	補委	平成27年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)研究事業
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究.	中島淳	肝胆膵消化器病学	20万円	補委	平成27年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)研究事業
エビデンス創出を目指した慢性特発性偽性腸閉塞症の新規診断・治療法の研究.	中島淳	肝胆膵消化器病学	999万円	補委	平成27年度 日本医療研究開発機構 (AMED) 受託研究費
「抗菌薬3剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療」に係る医師主導治験実施.	中島淳	肝胆膵消化器病学	104万円	補委	平成27年度 日本医療研究開発機構 (AMED) 受託研究費
HCV感染とNASH病態進展の違い.	中島淳	肝胆膵消化器病学	100万円	補委	平成27年度 日本医療研究開発機構 (AMED) 受託研究費
「分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発」7. (同一胃癌症例の原発組織、非癌部粘膜、血液、腹水を用いた胃癌の治療・再発についての研究).	中島淳	肝胆膵消化器病学	440万円	補委	平成27年度国立研究開発法人日本医療研究開発機
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究.	齊藤聡	肝胆膵消化器病学	26万円	補委	平成27年度厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服政策研究事業
慢性偽性腸閉塞症の新規治療法の開発.	中島淳	肝胆膵消化器病学	182万円	補委	平成27年度学術研究助成基金助成金(挑戦の萌芽研究) (H27~28年度)
IgG4関連硬化性胆管炎における内視鏡的胆道生検、NBIを用いた新規診断法.	中島淳	肝胆膵消化器病学	20万円	補委	平成27年度学術研究助成基金助成金(基盤研究(C)) (H27~29年度)

局所感染により誘発される重度全身疾患発症メカニズムの解明とその治療薬の開発.	中島淳	肝胆膵消化器病学	90万円	補委	平成27年度科学研究費補助金(基盤研究(B))(H27~28年度)
IgG4関連硬化性胆管炎における内視鏡的胆道生検、NBIを用いた新規診断法.	窪田賢輔	肝胆膵消化器病学	104万円	補委	平成27年度学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))(H27~29年度)
非アルコール性脂肪肝炎進展機序におけるmicroRNA-27bの関与の解明.	今城健人	肝胆膵消化器病学	195万円	補委	平成27年度学術研究助成基金助成金(若手研究(B))(H27~28年度)
局所感染により誘発される重度全身疾患発症メカニズムの解明とその治療薬の開発.	今城健人	肝胆膵消化器病学	40万円	補委	平成27年度科学研究費補助金(基盤研究(B))(H27~28年度)
慢性偽性腸閉塞症に対する新規減圧治療法の確立.	大久保秀則	肝胆膵消化器病学	195万円	補委	平成27年度学術研究助成基金助成金(若手研究(B))(H27~28年度)
大腸腫瘍におけるGPR120経路の役割の解明とEPAによる化学予防の確立.	日暮琢磨	肝胆膵消化器病学	195万円	補委	平成27年度学術研究助成基金助成金(若手研究(B))(H27~28年度)
肝硬度測定を用いたC型肝炎治療後の発癌リスク診断法の開発.	留野渉	肝胆膵消化器病学	221万円	補委	平成27年度学術研究助成基金助成金(若手研究(B))(H27~28年度)
NASH病態における各種脂肪酸の毒性および感受性に関するメカニズムの解明.	小川祐二	肝胆膵消化器病学	130万円	補委	平成27年度学術研究助成基金助成金(若手研究(B))(H27~28年度)
C型慢性肝炎ウイルスによる脂質代謝異常に対するmiRNAsの関与の解明.	中島淳	肝胆膵消化器病学	30万円	補委	平成26年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)(H26~28年度)
過敏性腸症候群における小腸運動異常の研究.	中島淳	肝胆膵消化器病学	100万円	補委	平成26年度学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究)(H26~27年度)
C型慢性肝炎ウイルスによる脂質代謝異常に対するmiRNAsの関与の解明.	斉藤聡	肝胆膵消化器病学	104万円	補委	平成26年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)(H26~28年度)
3剤併用療法を受けるC型肝炎患者の意思決定プロセスの実態と意思決定要因.	斉藤聡	肝胆膵消化器病学	20万円	補委	平成26年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)(H26~27年度)
非アルコール性脂肪肝炎におけるPARVB遺伝子の機能解析.	馬渡弘典	肝胆膵消化器病学	195万円	補委	平成26年度 学術研究助成基金助成金 若手研究(B)(H26~27年度)
経内頸静脈的脂肪酸持続投与が大腸発癌に与える影響および分子メカニズムの解明.	遠藤宏樹	肝胆膵消化器病学	195万円	補委	平成26年度 学術研究助成基金助成金 若手研究(B)(H26~27年度)
大腸発癌におけるTNF-R1の検討.	細野邦広	肝胆膵消化器病学	195万円	補委	平成26年度 学術研究助成基金助成金若手研究(B)(H26~27年度)
大腸de novo癌に関わる遺伝子異常および発癌分子機序の解明.	酒井英嗣	肝胆膵消化器病学	156万円	補委	平成26年度 学術研究助成基金助成金 若手研究(B)(H26~27年度)
C型慢性肝炎ウイルスによる脂質代謝異常に対するmiRNAsの関与の解明.	今城健人	肝胆膵消化器病学	30万円	補委	平成26年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)(H26~28年度)

過敏性腸症候群における小腸運動異常の研究.	藤田祐司	肝胆膵消化器病学	52万円	補委	文部科学省科研費 平成26年度 学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究 (H26~27年度)
慢性炎症の病態形成におけるレプチンの役割解明.	中島淳	肝胆膵消化器病学	270万円	補委	文部科学省科研費 平成26年度 科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型) (H25~26年度)
非アルコール性脂肪肝炎における lipotoxicityによる病態の解明.	中島淳	肝胆膵消化器病学	410万円	補委	平成25年度 学術研究助成基金助成金基盤研究(B) (H25~27年度)
内視鏡・胃壁固定具補助下経皮的胃全層生検の有用性に関する研究.	野中敬	肝胆膵消化器病学	90万円	補委	文部科学省科研費 平成25年度 学術研究助成基金助成金 若手研究(B) (H25~27年度)
非アルコール性脂肪肝炎 (nonalcoholic steatohepatitis:NASH)の病態進展における肥満と腸内細菌由来エンドトキシンの役割を解明する.	今城健人	肝胆膵消化器病学	100万円	補委	平成27年度 横浜総合医学振興財団 推進研究助成 継続3年度助成
飽和脂肪酸経頸静脈投与モデルマウスによるNASH病態解明および治療法の検討.	小川祐二	肝胆膵消化器病学	50万円	補委	横浜総合医学振興財団 平成27年度 わかば研究助成
micro RNA を介した非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) 発症、進展におけるメカニズムの解析.	結束貴臣	肝胆膵消化器病学	50万円	補委	横浜総合医学振興財団 平成27年度 わかば研究助成
大腸発癌モデルマウスを用いた腸内細菌による大腸発癌関与についての研究.	内山詩織	肝胆膵消化器病学	40万円	補委	横浜総合医学振興財団 平成27年度 わかば研究助成
膵癌診断における超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診 (EUS-FNA) 検体中のCancer-Associated Fibroblast 解析の有用性の検討.	佐藤高光	肝胆膵消化器病学	40万円	補委	横浜総合医学振興財団 平成27年度 わかば研究助成
急性膵炎における炎症波及因子としての Granzyme の関与の検討.	栗田裕介	肝胆膵消化器病学	40万円	補委	横浜総合医学振興財団 平成27年度 わかば研究助成
糖尿病診療均てん化のための標準的診療マニュアル作成とその有効性の検証.	寺内康夫	内分泌・糖尿病内科学	60万円	補委	厚生労働省科学研究費補助金
日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究 (JDCS).	寺内康夫	内分泌・糖尿病内科学	50万円	補委	厚生労働省科学研究費補助金
平成27年度学術研究動向調査等に関する研究	寺内康夫	内分泌・糖尿病内科学	130万円	補委	厚生労働省科学研究費補助金
脳虚血再灌流時における新たな細胞障害因子に関する研究.	岸本真雄	脳神経外科学	50万円	補委	朝日生命成人病研究所 成人病研究助成
非骨傷性頸髄損傷に対する新規治療: 顆粒球コロニー刺激因子の有効性の検討.	村田英俊	脳神経外科学	494万円	補委	科学研究費 基盤研究 (C) (一般) (H26~H28)
陰圧閉鎖法のリンパ管新生による新たな低侵襲四肢リンパ浮腫治療に関する研究	前川二郎	形成外科学	200万円	補委	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) (H27-29)
リンパ動態の可視化-乳糜胸腹水, 慢性リンパ浮腫における新たな診断と治療法の確立	松原 忍	形成外科学	120万円	補委	学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究 (H27-29)

パニック障害における脳構造、生理機能、臨床症状との関連および性差.	浅見 剛	精神医学	80万円(2015年度分)	補委	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(若手研究B), 2013年-2015年
パニック症における脳白質構造および局所脳機能的連絡の変化.	浅見 剛	精神医学	100万円	補委	第9回精神薬療分野 若手研究者助成金
ライソソーム病におけるαシヌクレインの機能と疾病への関与.	鈴木 京子	精神医学	10万円	補委	文科省科研費分担
救命救急センターにおける自殺未遂者再発防止事業.	平安良雄	精神医学	545万円	補委	横浜市受託研究費
慢性そう痒性皮膚疾患の病態解明と新規治療薬の開発.	相原道子	皮膚科学	40万円	補委	平成27年度科学研究費助成事業 基盤研究◎
重症薬疹のゲノムマーカー探索と病態学的関連性検証に基づく発症予測診断系の開発.	相原道子	皮膚科学	30万円	補委	平成27年度科学研究費補助金 基盤研究(B)
官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発.	相原道子	皮膚科学	100.1万円	補委	平成27年度日本医療研究開発機構研究費 医薬品等規制調和・評価研究事業
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究.	相原道子	皮膚科学	100万円	補委	平成27年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業
市販後における重篤副作用(間質性肺炎、横紋筋融解症、重篤薬疹等)の発症要因解明と安全対策に関する研究.	相原道子	皮膚科学	50万円	補委	平成27年度日本医療研究開発機構研究費 医薬品等規制調和・評価研究事業
重症モモアレルギーのアレルゲン解析と検査法の確立.	猪又直子	皮膚科学	200万円	補委	平成27年度科学研究費助成事業 基盤研究◎
乾癬の病態におけるCaveolinの役割.	山口由衣	皮膚科学	100万円	補委	平成27年度科学研究費助成事業 若手研究(B)
乾癬の慢性炎症病態におけるCaveolin-1の役割と新規治療法開発	山口由衣	皮膚科学	200万円	補委	平成27年度 推進研究助成一般財団法人横浜総合医学振興財団
乾燥肌やアトピー性皮膚炎へのコラーゲントリペプチドの内服効果.	大川智子	皮膚科学	50万円	補委	平成27年度科学研究費助成事業 若手研究(B)
乾癬における転写因子IRF8の発現と病態形成関与の検討.	渡邊友也	皮膚科学	150万円	補委	平成27年度科学研究費助成事業 若手研究(B)
先天異常モニタリング解析による本邦の先天異常発生状況の推移とその影響・要因(放射線被ばくの影響, 出生前診断の影響等を含む)に関する研究.	平原史樹	遺伝子診療部	560万円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構研究費
先天異常モニタリングに関する研究.	平原史樹	遺伝子診療部	300万円	補委	日本産婦人科医会 おぎゃー献金基金
もやもや病の包括的なエクソーム解析.	宮武聡子	遺伝子診療部	65万円	補委	文科省科学研究費基盤研究(C) (H26- H28年度)

生殖・先天異常ならびに周産期異常における葉酸・葉酸代謝の果たす役割に関する研究.	浜之上はるか	遺伝子診療部	6.75万円	補委	文科省科学研究費 基盤研究◎
腎肺クロストークを介した人工呼吸器誘発性腎障害のメカニズム解明.	金子猛	呼吸器内科	40万円	補委	平成27年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(H24-28年度), 40万円.
喘息・COPDオーバーラップ症候群(ACOS)における気道分泌制御の重点的研究.	金子猛	呼吸器内科	10万円	補委	平成27年度学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)(H27-29年度)
ナノ粒子化免疫調節剤の呼吸器疾患への治療応用の研究.	佐藤隆	呼吸器内科	220万円	補委	平成27年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)(H27-29年度)
ナノ・マイクロ粒子化免疫調節剤の経気道投与による先駆的肺癌治療と安全性に関する研究	佐藤隆	呼吸器内科	33万円	補委	平成27年度横浜学術教育振興財団研究助成金
膵癌間質のプロテオーム解析	遠藤格	消化器・腫瘍外科学	80万円	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C),
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における包括的な診断・治療ガイドライン作成に関する研究	遠藤格	消化器・腫瘍外科学	12万円	補委	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業
課題番号26-10高齢者術後せん妄予防・治療のための標準化プログラム作成および術前CGA/虚弱評価による高齢者手術の安全性評価に関する研究	秋山浩利	消化器・腫瘍外科学	40万円	補委	長寿医療研究開発費
膵癌術前化学放射線療法後切除例の予後予測因子に関するプロテオーム解析	森隆太郎	消化器・腫瘍外科学	50万円	補委	日本膵臓病研究財団 膵臓病研究奨励賞研究助成金
膵癌間質のプロテオーム解析	森隆太郎	消化器・腫瘍外科学	10万円	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)
膵癌におけるSMAD4の発現と微小環境構築による癌進展メカニズムの解明	廣島幸彦	消化器・腫瘍外科学	110万円	補委	文部科学省科学研究費 若手研究(B)
膵癌間質のプロテオーム解析	廣島幸彦	消化器・腫瘍外科学	20万円	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)
オリジナル抗原 HSP105由来ペプチドワクンの適応拡大などに関する基礎的検討と症例登録への協力(オリジナル抗原 HSP105由来ペプチドワクンの FIH医師主導治験)	澤田 雄	消化器・腫瘍外科学	150万円	補委	日本医療研究開発機構(AMED)研究費

小計13

合計
181

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	A Nemoto	医療情報部	Control Access Point of Devices for Delay Reduction in WBAN Systems with CSMA/CA.	Communications and Network 07(01):1-11, 2015
2	A Nomura	医療情報部	Development of a Motion Capturing and Load Analyzing System for Caregivers Aiding a Patient to Sit Up in Bed.	Advances in Experimental Medicine and Biology, 823: 127-142, 2015
3	Azushima K	循環器・腎臓内科学	Effects of the oriental herbal medicine Bofu-tsusho-san in obesity hypertension: A multicenter, randomized, parallel-group controlled trial.	Atherosclerosis 240(1): 297-304, 2015.
4	Kiyokuni M	循環器・腎臓内科学	A case of cardio-pulmonary arrest caused by anomalous origin of left main coronary artery from right sinus of valsalva.	International Journal of Cardiology, 184: 296-298, 2015.
5	Kuji T	循環器・腎臓内科学	Acceleration of iron utilization after intravenous iron administration during activated erythropoiesis in hemodialysis patients: a randomized study.	Ther Apher Dial, 19(2):131-137, 2015.
6	Ohsawa M	循環器・腎臓内科学	Effects of pitavastatin add-on therapy on chronic kidney disease with albuminuria and dyslipidemia.	Lipids Health Dis, 14:161, 2015.
7	Ogino Y	循環器・腎臓内科学	A myocardial perfusion imaging system using a multifocal collimator for detecting coronary artery disease: validation with invasive coronary angiography.	Ann Nucl Med, 29(4):366-70, 2015.
8	Takamura T	循環器・腎臓内科学	Validation of prone myocardial perfusion SPECT with a variable-focus collimator versus supine myocardial perfusion SPECT with or without computed tomography-derived attenuation correction.	Ann Nucl Med, 29(10):890-6, 2015.
9	Masuda M	外科治療学	Does cardioplegia during cardiac surgery protect the heart at any time?	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery, 48(2):243-244, 2015.
10	Masuda M	外科治療学	Thoracic and cardiovascular surgery in Japan during 2013 : Annual report by The Japanese Association for Thoracic Surgery.	General thoracic and cardiovascular surgery, 63(12):670-701, 2015.
11	Kasama K	外科治療学	Total arch replacement for coarctation of the aorta in an adolescent.	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals, 23(5):576-578, 2015.

小計11

12	Isoda S	外科治療学	"Sandwich Technique" via a Right Ventricle Incision to Repair Postinfarction Ventricular Septal Defects.	Journal of Cardiac Surgery, 30(6):488-493, 2015.
13	Isoda S	外科治療学	Off-Pump Multilayered Sutureless Repair for a Left Ventricular Blowout Rupture after Aortic Dissection Repair.	Open Journal of Thoracic Surgery, 5:10-14, 2015.
14	Isoda S	外科治療学	Morbidity of Open Saphenous Vein Harvesting after Preoperative Ultrasonic Mapping.	Open Journal of Thoracic Surgery, 5:4-9, 2015.
15	Isoda S	外科治療学	Fibrin Sealant Patch to Treat Dialysis-Associated Hemorrhagic Pericarditis.	Open Journal of Thoracic Surgery, 5:1-3, 2015.
16	Kasama K	外科治療学	Late cardiac metastasis from colorectal carcinoma 15 years after surgery.	Asian cardiovascular and thoracic annals24(1)66-68.
17	Rino Y	外科治療学	Does herbal medicine reduce the risk of hepatocellular carcinoma?	World Journal of Gastroenterology,21(37):10598-10603, 2015.
18	Yamada T	外科治療学	Easy method for fixation of the anvil using a one-handed sliding-knot technique after laparoscopic total gastrectomy.	Asian Journal of Endoscopic Surgery, 8(4):483-486, 2015.
19	Yamada T	外科治療学	Surgical Apgar score predicts postoperative complications after surgery for gastric cancer.	Global Surgery, 1(3):48-51,2015.
20	Samejima J	外科治療学	Prognostic impact of bulky swollen lymph nodes in cN1 non-small cell lung cancer patients.	Japanese Journal of Clinical Oncology, 45(11):1050-1054, 2015.
21	Kirino Y	血液・免疫・感染症内科学	Predicting joint destruction in rheumatoid arthritis with power Doppler, anti-citrullinated peptide antibody, and joint swelling.	Mod Rheumatol, 25:842-8, 2015.
22	Kirino Y	血液・免疫・感染症内科学	Genetic architectures of seropositive and seronegative rheumatic diseases.	Nat Rev Rheumatol,11:401-414,2015
23	Nakajima Y	血液・免疫・感染症内科学	Acute leukemia during pregnancy: an investigative survey of the past 11 years.	Int J Lab Hematol, 37:174-80, 2015.
24	Nakajima Y	血液・免疫・感染症内科学	Successful pregnancy and delivery via in vitro fertilization with cryopreserved and thawed embryo transfer in an acute myeloid leukemia patient after allogeneic bone marrow transplantation.	Int J Hematol, 101:417-20, 2015.

25	Nakajima Y	血液・免疫・感染症内科学	Analysis of outcomes in patients with supra-diaphragmatic vs infra-diaphragmatic diffuse large B cell lymphoma treated with R-CHOP therapy.	Leuk Res, 39:198-203, 2015.
26	Tachibana T	血液・免疫・感染症内科学	Clinical significance of the administration of cytarabine or thiopeta in addition to total body irradiation and cyclophosphamide for allogeneic hematopoietic cell transplantation in patients with acute leukemia.	Int J Hematol, 102:451-9, 2015.
27	Tachibana T	血液・免疫・感染症内科学	Clinical significance of serum ferritin compared to liver iron content, measured using magnetic resonance imaging, after allogeneic hematopoietic cell transplantation.	Journal of Hematopoietic Cell Transplantation, 4:47-51, 2015.
28	Tachibana T	血液・免疫・感染症内科学	Successful Engraftment and Durable Graft-versus-host Disease Control with Haploidentical Peripheral Blood and a Short-term Conditioning Regimen for Primary Graft Failure.	Intern Med, 54:2749-52, 2015.
29	Takasaki H	血液・免疫・感染症内科学	Post-treatment PET-CT may Predict the Prognosis of DLBCL with a Bulky Mass.	Indian J Hematol Blood Transfus, 31:346-51, 2015.
30	Tomita N	血液・免疫・感染症内科学	Post-therapy 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography for predicting outcome in patients with peripheral T-cell lymphoma.	Ann Hematol, 94:431-6, 2015.
31	Tomita N	血液・免疫・感染症内科学	Biweekly THP-COP therapy for newly diagnosed peripheral T-cell lymphoma.	Hematol Oncol, 33:9-14, 2015.
32	Tomita N	血液・免疫・感染症内科学	R-CHOP therapy alone for limited-stage follicular lymphoma.	Leuk Res, 39:582-5, 2015.
33	Tomita N	血液・免疫・感染症内科学	Evaluation of soluble interleukin-2 receptor and serum lactate dehydrogenase in malignant lymphoma.	Ann Hematol, 94:1935-7, 2015.
34	Tomita N	血液・免疫・感染症内科学	Intrathecal methotrexate prophylaxis and central nervous system relapse in diffuse large B-cell lymphoma patients following R-CHOP.	Leuk Lymphoma, 56:725-9, 2015.
35	Ueda A	血液・免疫・感染症内科学	Adalimumab in the management of Behçet's disease.	Ther Clin Risk Manag, 11:611-9, 2015.
36	Yoshimi R	血液・免疫・感染症内科学	A novel 8-joint ultrasound score is useful in daily practice for rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol, 25:379-85, 2015.

37	Hatayama Y	口腔外科学	Preliminary results of proton beam therapy for stage III non-small-cell lung cancer.	Curr Oncol. 22(5): 370-375, 2015.
38	Ishijima M	口腔外科学	Enhancing osteoblast-affinity of titanium scaffold for bone engineering by use of ultraviolet light treatment.	Biomed Res 36:55-62, 2015.
39	Ishijima M	口腔外科学	Osteogenic cell sheets reinforced with photofunctionalized micro-thin titanium.	J Biomater Appl 29:1372-1384, 2015.
40	Hirota M	口腔外科学	High porous titanium scaffolds showed higher compatibility than lower porous beta-tricalcium phosphate scaffolds for regulating human osteoblast and osteoclast differentiation.	Mater Sci Eng C Mater Biol Appl 49:623-631, 2015.
41	Iwai T	口腔外科学	Use of self-tapping metal screws for temporary fixation of a resorbable plate system in maxillofacial surgery.	J Craniofac Surg 26:891-892, 2015.
42	Iwai T	口腔外科学	Communication between the transverse cervical nerve and the marginal mandibular branch of the facial nerve: A rare anatomical variant.	Plast Surg Case Studies 1:9-10, 2015.
43	Makita C	口腔外科学	High-dose proton beam therapy for stage I non-small cell lung cancer: Clinical outcomes and prognostic factors.	Acta Oncol. 54:307-314, 2015.
44	Naganawa K	口腔外科学	Producing Capabilities of Interferon-gamma and Interleukin-10 in Peripheral Blood from Oral Squamous Cell Carcinoma Patients.	Open Dent J 9:120-4, 2015.
45	Nakagawa K	口腔外科学	Biocompatibility of 4-META/MMA-TBB resin used as a dental luting agent.	J Prosthet Dent 114:114-121, 2015.
46	Nobusawa A	口腔外科学	Solitary fibrous tumor composing benign and malignant components in the floor of the mouth: A case report.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 27(2): 267-70, 2015.
47	Omura S	口腔外科学	Vital staining of palatal soft tissue in horseshoe Le Fort I osteotomy for superior repositioning of the maxilla.	J Craniofac Surg 26:911-913, 2015.
48	Omura S	口腔外科学	U-shaped osteotomy around the descending palatine artery to prevent posterior osseous interference for superior/posterior repositioning of the maxilla in Le Fort I osteotomy.	J Craniofac Surg 26:1613-1615, 2015.
49	Ono T	口腔外科学	Clinical results of proton beam therapy for twenty older patients with esophageal cancer.	Radiol Oncol. 49(4): 371-378, 2015.

50	Tabuchi M	口腔外科学	Effect of UV photofunctionalization on biologic and anchoring capability of orthodontic miniscrews.	Int J Oral Maxillofac Implants 30:868-879, 2015.
51	Tabuchi M	口腔外科学	Ultraviolet photofunctionalization increases removal torque values and horizontal stability of orthodontic miniscrews.	Am J Orthod Dentofacial Orthop 148:274-282, 2015.
52	Yamashita Y	口腔外科学	Removal of migrated dental implants from the maxillary sinus 4 years 10 months after implant placement.	Oral Maxillofac Surg 19:315-319, 2015.
53	Yoshimasu H	口腔外科学	Postoperative evaluation of the folded pharyngeal flap operation for cleft palate patients with velopharyngeal insufficiency.	Ann Maxillofac Surg 5(1): 62-66, 2015.
54	Yoshihito O	口腔外科学	Investigation of blood flow in the external carotid artery and its branches with a new 3D peripheral model.	BioMedical Engineering. 15:16, 2016.
55	Nakamura T	産婦人科学	Efficacy of estrogen replacement therapy (ERT) on uterine growth and acquisition of bone mass in patients with Turner syndrome.	Endocr J, 62(11): 965-970, 2015.
56	Tanoshima M	産婦人科学	Risks of congenital malformations in offspring exposed to valproic acid in utero: A systematic review and cumulative meta-analysis.	Clin Pharmacol Ther, 98(4):417-441, 2015.
57	Motoki Y	産婦人科学	Increasing trends in cervical cancer mortality among young Japanese women below the age of 50 years: an analysis using the Kanagawa population-based Cancer Registry, 1975-2012.	Cancer Epidemiol, 39(5):700-706, 2015.
58	Asano R	産婦人科学	Aberrant expression of erythropoietin in uterine leiomyoma: implications in tumor growth.	Am J Obstet Gynecol, 213(2): 199.e1-8, 2015.
59	Mizushima T	産婦人科学	Aberrant expression of the cell polarity regulator aPKC λ / ι is associated with disease progression in cervical intraepithelial neoplasia (CIN): A possible marker for predicting CIN prognosis.	Int J Gynecol Pathol, 35(2): 106-117, 2016.
60	Hara R	小児科学	A national survey on current use of mycophenolate mofetil for childhood-onset systemic lupus erythematosus in Japan.	Mod Rheumatol, 25:858-64, 2015.
61	Nakano Y	小児科学	Usefulness of real-time three-dimensional trans-oesophageal echocardiography for detection of isolated unroofed coronary sinus.	Cardiol Young, 25:181-3, 2015.
62	Nozawa T	小児科学	Usefulness of two IFN- γ release assays for patients with rheumatic disease.	Pediatr Int, 2015 Dec 15.

63	Izumi K	病理部	Expression of androgen receptor in non-muscle-invasive bladder cancer predicts the preventive effect of androgen deprivation therapy on tumor recurrence.	Oncotarget.:7(12):14153-60.:2016
64	Miyake N	病理部	Biallelic Mutations in Nuclear Pore Complex Subunit NUP107 Cause Early-Childhood-Onset Steroid-Resistant Nephrotic Syndrome.	Am J Hum Genet : 97(4):555-66.: 2015.
65	Tateishi Y	病理部	The potential role of microRNA-31 expression in early colorectal cancer.	Pathol Int:65(10):513-8.:2015
66	Mitome T	病理部	Bilateral renal lymphoma: rapid recovery from an acute kidney injury after open renal biopsy.	Clin Case Rep: 4(1):5-8:2015
67	Hata M	放射線科	Postoperative radiation therapy for extramammary Paget's disease.	Br J Dermatol, 172(4): 1014-1020, 2015.
68	Hata M	放射線科	Radiation therapy for para-aortic lymph node metastasis from uterine cervical cancer.	Anticancer Res, 35(9): 4849-4854, 2015.
69	Kaneta T	放射線科	Improved Diagnostic Accuracy of SPECT Through Statistical Analysis and the Detection of Hot Spots at the Primary Sensorimotor Area for the Diagnosis of Alzheimer Disease in a Community-Based Study: "The Osaki-Tajiri Project".	Clin Nucl Med. 2016 Jan;41(1):e1-6.
70	Kikuchi M	麻酔科学	Difference in the Spread of Injectate between Ultrasound Guided Pectoral Nerve Block I and II. A Cadaver Study.	Masui. 2016 Mar;65(3):314-7.
71	Harada S	麻酔科学	The Prevalence of Neuropathic Pain in Terminally Ill Patients With Cancer Admitted to a Palliative Care Unit: A Prospective Observational Study (Epub ahead of print).	Am J Hosp Palliat Care, March, 20, 2015.
72	Takaki S	麻酔科学	Perioperative change in creatinine following cardiac surgery with cardiopulmonary bypass is useful in predicting acute kidney injury: a single-centre retrospective cohort study.	Interact Cardiovasc Thorac Surg, 21: 465-469, 2015.
73	Tojo K	麻酔科学	Atelectasis causes alveolar hypoxia-induced inflammation during uneven mechanical ventilation in rats.	Intensive care Med Exp, 3:56, 2015.
74	Takaki S	麻酔科学	An intravenous drip pole advanced from the mouth to the retroperitoneum.	Int J Surg Case Rep, 16:112-5, 2015.

75	Asakura A	麻醉科学	A randomized, controlled clinical trial.	PLoS ONE,10: e0133309,2015.
76	Yamamoto N	麻醉科学	Effects of Breathing Pattern on Oxygen Delivery Via a Nasal or Pharyngeal Cannula.	Respir Care,60: 1804-1809,2015.
77	Takaki S	麻醉科学	A Evaluation of an Oxygen Mask-Based Capnometry Device in Subjects Extubated After Abdominal Surgery.	Respir Care, 60: 705-710,2015.
78	Yamaguchi Y	麻醉科学	Impalement oral injury: Ultrasonic scalpel is the best tool to cut off a toothbrush.	Technol Health Care,23:685- 690,2015.
79	Yamazaki E	臨床検査部	Beta-2 microglobulin is a strong prognostic factor in patients with DLBCL receiving R-CHOP therapy.	Leuk Res, 39(11): 1187-91, 2015
80	Yamazaki E	臨床検査部	Evaluation of soluble interleukin-2 receptor and serum lactate dehydrogenase in malignant lymphoma.	Ann Hematol, 94(11):1935-7, 2015.
81	Yamazaki E	臨床検査部	Clinical significance of the administration of cytarabine or thiotepa in addition to total body irradiation and cyclophosphamide for allogeneic hematopoietic cell transplantation in patients with acute leukemia.	Int J Hematol, 102(4):451-9, 2015.
82	Yamazaki E	臨床検査部	R-CHOP therapy alone for limited-stage follicular lymphoma.	Leuk Res, 39(6): 582-5, 2015.
83	Shiraishi Y	臨床検査部	Interventions to prevent repeat suicidal behavior in patients admitted to an emergency department for a suicide attempt: A meta-analysis.	Journal of Affective Disorders, 175: 66- 78, 2015.
84	Takano K	臨床検査部	Association between blood glucose variability and coronary plaque instability in patients with acute coronary syndromes.	Cardiovascular Diabetology. 2015 Aug 20;14:111, 2015.
85	Iida H	消化器内科学	Early effects of oral administration of esomeprazole and omeprazole on the intragastric pH.	Hepatogastroentero logy. 62(138):493- 6, 2015.
86	Numata K	消化器内科学	Advances in ultrasound systems for hepatic lesions in Japan.	J Medical Ultrasonics,42 (3): 297-301, 2015.
87	Irie K	消化器内科学	Enhancement of radiofrequency ablation of the liver combined with transarterial embolization using various embolic agents.	Abdom Imaging, 40 (6):1821-1828, 2015.

88	Hirasawa K	消化器内科学	Coagulation syndrome: Delayed perforation after colorectal endoscopic treatments.	World J Gastrointest Endosc, 10:7 (12):1055-61, 2015.
89	Numata K	消化器内科学	Use of vessel patterns on contrast-enhanced ultrasonography using a perflubutane-based contrast agent for the differential diagnosis of regenerative nodules from early hepatocellular carcinoma or high-grade dysplastic nodules in patients with chronic liver disease.	Abdom Imaging, 40 (7):2372-83, 2015.
90	Umezawa S	肝胆膵消化器病学	Visual distraction alone for the improvement of colonoscopy-related pain and satisfaction.	World J Gastroenterol, 21(15):4707-14, 2015.
91	Matsuura M	肝胆膵消化器病学	Effectiveness of therapeutic barium enema for diverticular hemorrhage.	World J Gastroenterol, 21(18):5555-9, 2015.
92	Yamada A	肝胆膵消化器病学	Serum miR-21, miR-29a and miR-125b are promising biomarkers for the early detection of colorectal neoplasia.	Clin Cancer Res, 21(18):4234-42, 2015.
93	Imajo K	肝胆膵消化器病学	Are platelets count useful for detecting the grade of steatosis?.	Hepat Mon, 15(5):e28957, 2015.
94	Arimoto J	肝胆膵消化器病学	Clinical value of capsule endoscopy for detecting the small bowel lesions in patients with intestinal Behçet's disease.	Dig Endosc, 2015 Sep 29. [Epub ahead of print]
95	Nonaka T	肝胆膵消化器病学	Feasibility of deep sedation with the combination of propofol and dexmedetomidine hydrochloride for esophageal endoscopic submucosal dissection.	Dig Endosc, 2015 Oct 17. [Epub ahead of print]
96	Sakai E	肝胆膵消化器病学	Genetic and epigenetic aberrations occurring in colorectal tumors associated with serrated pathway.	Int J Cancer, 2015 Oct 28. [Epub ahead of print]
97	Imajo K	肝胆膵消化器病学	Magnetic Resonance Imaging More Accurately Classifies Steatosis and Fibrosis in Patients with Nonalcoholic Fatty Liver Disease Than Transient Elastography.	Gastroenterology, 150(3):626-637, 2015.
98	Yoneda M	肝胆膵消化器病学	Decreasing Liver Stiffness Following Pericardiectomy for Constrictive Pericarditis.	Intern Med. 54(16):2079-80, 2015.
99	Yoneda M	肝胆膵消化器病学	Supersonic Shear Imaging and Transient Elastography With the XL Probe Accurately Detect Fibrosis in Overweight or Obese Patients With Chronic Liver Disease.	Clin Gastroenterol Hepatol. 13(8):1502-9.e5, 2015.

100	Yoneda M	肝胆膵消化器病学	Screening of nonalcoholic fatty liver disease in patients with coronary heart disease by transient elastography: proceed with caution.	Wien Klin Wochenschr. 127(1-2):75-6, 2015.
101	Endo H	肝胆膵消化器病学	Small bowel injury in low-dose aspirin users	J Gastroenterol; 50(4):378-86, 2015.
102	Aoki K	内分泌・糖尿病内科学	Anagliptin decreases serum lathosterol level in patients with type 2 diabetes: A pilot study.	Expert Opin Pharmacother, 16(12): 1749-54, 2015.
103	Inoue Y	内分泌・糖尿病内科学	A randomized controlled trial of liraglutide versus insulin detemir plus sitagliptin: effective switch from intensive insulin therapy to the once-daily injection in patients with well-controlled type 2 diabetes.	J Clin Pharmacol, 55(7): 831-8, 2015.
104	Kamiko K	内分泌・糖尿病内科学	Comparison of the administration of teneligliptin every day versus every other day in Japanese patients with type 2 diabetes: A randomized non-inferior test.	J Clin Pharmacol. 55(2): 144-151, 2015
105	Kondo Y	内分泌・糖尿病内科学	Early liraglutide treatment improves β -cell function in patients with type 2 diabetes: A retrospective cohort study.	Endocr J, 62(11): 971-80, 2015.
106	Ono K	内分泌・糖尿病内科学	The Safety, Efficacy and Treatment Satisfaction Comparison of Unchanged Premixed Insulin Regimen Plus Sitagliptin with Switch from the Premixed Insulin to Once-Daily Basal Insulin Plus Sitagliptin in Patients with Inadequately Controlled Type 2 Diabetes with Twice-Daily Premixed Insulin.	Int J Diabetes Clin Res 2:4, 2015.
107	Orime K	内分泌・糖尿病内科学	Lipid-lowering agents inhibit hepatic steatosis in a non-alcoholic steatohepatitis-derived hepatocellular carcinoma mouse model.	Eur J Pharmacol 772:22-32, 2015
108	Takahata M	内分泌・糖尿病内科学	Comparison of azelnidipine and trichlormethiazide in Japanese type 2 diabetic patients with hypertension: the COAT randomized controlled trial.	PloS ONE, 10(5): e0125519, 2015.
109	Yoshii T	内分泌・糖尿病内科学	The effects of bazedoxifene on bone, glucose, and lipid metabolism in postmenopausal women with type 2 diabetes: An exploratory pilot study.	J Clin Med Res, 7(10): 762-9, 2015.
110	Nakamura T	脳神経外科学	Mutations in the ITAM domain of CD79B are associated with unfavourable prognosis in primary central nervous system B-cell lymphoma patients.	Neuropathol Appl Neurobiol, 25:doi: 10. 1111/nan. 12259, 2015.

111	Suenaga J	脳神経外科学	White matter injury and microglia/macrophage polarization are strongly linked with age-related long-term deficits in neurological function after stroke.	Experimental neurology, 272: 109-119, 2015.
112	Takase H	脳神経外科学	Therapeutic Suggestions for Chronic Subdural Hematoma Associated with Idiopathic Thrombocytopenic Purpura: A Case Report and Literature Review.	Neurologia medico-chirurgica case report journal, 3: 118-122, 2015.
113	Tateishi K	脳神経外科学	"Extreme Vulnerability of IDH1 Mutant Cancers to NAD+ Depletion."	Cancer Cell 28(6): 773-784, 2015.
114	Kobayashi S	形成外科学	Maxillary growth after maxillary protraction Appliance in conjunction with pre-surgical orthopedics, gingivoperiosteoplasty and Furlow palatoplasty for complete bilateral cleft lip and palate patients with protruded premaxilla.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. . pii: S1748-6815(15)00072-8. doi: 10.1016/j.bjps. 2015.
115	Mikami T	形成外科学	Inhibition of Rho-associated kinases disturbs the collective cell migration of stratified TE-10 cells.	Biol Res. 48, 2015.
116	Satake T	形成外科学	Unilateral breast reconstruction using bilateral inferior gluteal artery perforator flaps.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 7: e314-e315, 2015.
117	Satake T	形成外科学	"Mini-Flow-Through" Deep Inferior Epigastric Perforator Flap for Breast Reconstruction with Preservation of Both Internal Mammary and Deep Inferior Epigastric Vessels.	Arch Plast Surg. 42: 783-787, 2015.
118	Sugawara J	形成外科学	Influence of the frequency of laser toning for melasma on occurrence of leukoderma and its early detection by ultraviolet imaging.	Lasers Surg . 47(2):161-7. 2015
119	Sugawara J	形成外科学	Dynamic blood flow to the retrograde limb of the internal mammary vein in breast reconstruction with free flap.	Microsurgery. 35(8):622-6. 2015.
120	Chiba Y	精神医学	Early differential diagnosis between Alzheimer's disease and dementia with Lewy bodies: Comparison between 18F-FDG PET and 123I-IMP SPECT.	Psychiatry Res, S0925-4927(15): 30187-6, 2015.
121	Chiba Y	精神医学	Clinical profiles of dementia with Lewy bodies with and without Alzheimer's disease-like hypometabolism.	Int J Geriatr Psychiatry, 30(3): 316-23, 2015.
122	Fujita J	精神医学	Auditory verbal hallucinations increase the risk for suicide attempts in adolescents with suicidal ideation.	Schizophr Res, 168: 209-212, 2015.

123	Ikeda M	精神医学	Adequacy of using consensus guidelines for diagnosis of dementia with Lewy bodies in clinical trials for drug development.	Dementia and Geriatric Cognitive Disorders, 41:55-67, 2015.
124	Ikeda M	精神医学	Donepezil for dementia with Lewy bodies: a randomized placebo- controlled, confirmatory phase III trial.	Alzheimer's Research & Therapy, 7:1-10, 2015.
125	Inagaki M	精神医学	Interventions to prevent repeat suicidal behavior in patients admitted to an emergency department for a suicide attempt: A meta-analysis.	Journal of Affective Disorders, 175:66-78, 2015.
126	Kondo D	精神医学	An autopsied case of corticobasal degeneration showing severe cerebral atrophy over a protracted disease course of 16 years.	Neuropathology, 35:280-288, 2015.
127	Mori E	精神医学	Effect of donepezil on extrapyramidal systems in patients with dementia with Lewy bodies: A secondary pooled analysis of two randomized-controlled and two open-labelled long term extension studies.	Dementia, Geriat Cogn Disord, 40: 186-198, 2015.
128	Mori E	精神医学	Long-term donepezil use for dementia with Lewy bodies: results from an open-label extension of phase III trial.	Alzheimer's Research & Therapy, 7: 1-13, 2015
129	Okumura Y	精神医学	Trends in use of psychotropic medications among patients treated with cholinesterase inhibitors in Japan from 2002 to 2010.	International psychogeriatrics, 27: 407-415, 2015.
130	Ota K	精神医学	Visuoperceptual assessments for differentiating dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease: illusory contours and other neuropsychological examinations.	Arch Clin Neuropsychol, 30: 256-263, 2015.
131	Saito T	精神医学	Brain FDG-PET reflecting clinical course of depression induced by systemic lupus erythematosus: Two case reports.	J Neurol Sci, 358: 464-466, 2015.
132	Tomeno W	精神医学	Non-alcoholic fatty liver disease comorbid with major depressive disorder: The pathological features and poor therapeutic efficacy.	J Gastroenterol Hepatol, 30(6): 1009-14, 2015.
133	Yoshita M	精神医学	Diagnostic accuracy of 123I-Meta-Iodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in dementia with Lewy bodies: a multicenter study.	Plos One, 10:1-13, 2015.
134	Aihara M	皮膚科学	The efficacy of additional intravenous immunoglobulin to steroid therapy in Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis.	J Dermatol, 42(8):768-777, 2015.

135	Sugawara M	皮膚科学	Exploration of a standard treatment for Buruli ulcer through a comprehensive analysis of all cases diagnosed in Japan.	J Dermatol, 42(6):588-595, 2015.
136	Yamaguchi Y	皮膚科学	Decreased expression of Caveolin-1 contributes to the pathogenesis of psoriasiform dermatitis in mice.	J Invest Dermatol, 135(11):2764-2774, 2015.
137	Hakuta A	皮膚科学	Reduction of IL-10 production by B cells in intractable toxic epidermal necrolysis.	J Dermatol, 42(8):804-808, 2015.
138	Ishida S	皮膚科学	Case of subepidermal autoimmune bullous disease with psoriasis vulgaris reacting to both BP180 C-terminal domain and laminin gamma-1.	J Dermatol, 42(4):391-393, 2015.
139	Okada R	皮膚科学	Development of mucous membrane pemphigoid with antibodies to α 3 subunit of laminin 332 and bronchiolitis obliterans in a patient with chronic graft-versus-host disease.	Eur J Dermatol, 25(5):505-506, 2015.
140	Nozaki Y	皮膚科学	Non-drug-induced Stevens-Johnson syndrome successfully treated with high-dose i.v. immunoglobulin.	J Dermatol, 42(4):439-440, 2015.
141	Ototake Y	皮膚科学	A case of an anaphylactic reaction due to oats in granora.	Allergol Int, 64(4):386-387, 2015.
142	Miyatake S	遺伝子診療部	Atypical giant axonal neuropathy arising from a homozygous mutation by uniparental isodisomy.	Clin Genet, 87(4):395-7, 2015.
143	Miyatake S	遺伝子診療部	Detecting copy-number variations in whole-exome sequencing data using the eXome Hidden Markov Model: an 'exome-first' approach.	J Hum Genet, 60(4):175-82, 2015.
144	Miyake N	遺伝子診療部	Biallelic Mutations in Nuclear Pore Complex Subunit NUP107 Cause Early-Childhood-Onset Steroid-Resistant Nephrotic Syndrome.	Am J Hum Genet, 97(4):555-66, 2015.
145	Ohba C	遺伝子診療部	De novo KIF1A mutations cause intellectual deficit, cerebellar atrophy, lower limb spasticity and visual disturbance.	J Hum Genet, 60(12):739-42, 2015.
146	Sago H	遺伝子診療部	Nationwide demonstration project of next-generation sequencing of cell-free DNA in maternal plasma in Japan: 1-year experience.	Prenat Diagn, 35(4):331-336, 2015.
147	Saito H	遺伝子診療部	De novo KCNB1 mutations in infantile epilepsy inhibit repetitive neuronal firing.	Sci Rep, 5:15199, 2015.

148	Tanoshima M	遺伝子診療部	Risks of congenital malformations in offspring exposed to valproic acid in utero:A systematic review and cumulative meta-analysis.	Clin+K153:N157 Pharmacol Ther, 98(4):417-441, 2015.
149	Nagai K	呼吸器内科	Respiratory Failure, Orientation Disturbance, and Blood Pressure Score Predicts In-hospital Mortality in HIV-negative Non-multidrug-resistant Smear-positive Pulmonary Tuberculosis in Japan.	Sci Rep, 6: 21610, 2016.
150	Horita N	呼吸器内科	Amrubicin for relapsed small-cell lung cancer: a systematic review and meta-analysis of 803 patients.	Sci Rep, 6:18999, 2016.
151	Horita N	呼吸器内科	Sensitivity and specificity of Cobas TaqMan MTB real-time polymerase chain reaction for culture-proven Mycobacterium tuberculosis: meta-analysis of 26999 specimens from 17 Studies.	Sci Rep, 5:18113, 2015.
152	Ushio R	呼吸器内科	An Autopsy Case Report of Malignant Pleural Mesothelioma with Deciduoid Features.	Intern Med, 54: 2915-2917, 2015.
153	Horita N	呼吸器内科	Topotecan for Relapsed Small-cell Lung Cancer: Systematic Review and Meta-Analysis of 1347 Patients.	Sci Rep, 5: 15437, 2015.
154	Horita N	呼吸器内科	Adjunctive Systemic Corticosteroids for Hospitalized Community-Acquired Pneumonia: Systematic Review and Meta-Analysis 2015 Update.	Sci Rep, 5: 14061, 2015.
155	Horita N	呼吸器内科	Currently Used Low-Dose Pyrazinamide Does Not Increase Liver-Injury in the First Two Months of Tuberculosis Treatment.	Intern Med, 54: 2315-2320, 2015.
156	Horita N	呼吸器内科	Impact of Corticosteroids on Mortality in Patients with Acute Respiratory Distress Syndrome: A Systematic Review and Meta-analysis.	Intern Med, 54: 1473-1479, 2015.
157	Horita N	呼吸器内科	Long-acting muscarinic antagonist+long-acting beta agonist versus long-acting beta agonist+inhaled corticosteroid for COPD: A systematic review and meta-analysis.	Respirology, 20: 1153-1159, 2015.
158	Horita N	呼吸器内科	Triple therapy vs. dual bronchodilator therapy for chronic obstructive pulmonary disease: Is it worth the cost?	Respir Investig, 53: 173-175, 2015.
159	Horita N	呼吸器内科	Genetic model selection for a case-control study and a meta-analysis.	Meta Gene, 22: 1-8, 2015.

小計12

160	Horita N	呼吸器内科	Role of combined indacaterol and glycopyrronium bromide (QVA149) for the treatment of COPD in Japan.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis, 10: 813-822, 2015.
161	Sato T	呼吸器内科	Intrapulmonary Delivery of CpG Microparticles Eliminates Lung Tumors.	Mol Cancer Ther, 14: 2198-2205, 2015.
162	Takeda K	消化器・腫瘍外科学	Successful multidisciplinary treatment of refractory cytomegalovirus infection after living donor liver transplantation using mixed lymphocyte reactions report of a case.	Clin J Gastroentrol DOI 10.1007/s12328-016-0627-X
163	Kosaka T	消化器・腫瘍外科学	Imaging and Antitumoral Effect of a Cyclo-oxygenase 2-specific Replicative Adenovirus for Small Metastatic Gastric Cancer Lesions.	Anticancer Research, 35(10): 5201-5210, 2015.
164	Ishibe A	消化器・腫瘍外科学	Prediction of lateral pelvic lymph-node metastasis in low rectal cancer by magnetic resonance imaging.	World Journal of Surgery, DOI 10.1007/s00268-015-3299-7
165	Ota Y	消化器・腫瘍外科学	Thrombomodulin improves rat survival after extensive hepatectomy.	J Surg Res. 194 (2) : 375-382, 2015.
166	Murakami T	消化器・腫瘍外科学	Improved disease-free survival and overall survival after fluorescence-guided surgery of liver metastasis in an orthotopic nude mouse model.	Journal of Surgical Oncology, 112 (2) : 119-124, 2015.
167	Murakami T	消化器・腫瘍外科学	Therapeutic efficacy of tumor-targeting salmonella typhimurium A1-R on human colorectal cancer liver metastasis in orthotopic nude-mouse models.	Oncotarget, 6 (31) : 31368-31377, 2015.
168	Murakami T	消化器・腫瘍外科学	Adjuvant treatment with tumor-targeting Salmonella typhimurium A1-R reduces recurrence and increases survival after liver metastasis resection in an orthotopic nude mouse model.	Oncotarget, doi: 10.18632/oncotarget.6170, 2015.
169	Murakami T	消化器・腫瘍外科学	Fluorescence-Guided Surgery of Liver Metastasis in Orthotopic Nude-Mouse Models.	PLoS One, 10 (10), 2015.
170	Suzuki S	消化器・腫瘍外科学	High infiltration of mast cells positive to tryptase predicts worse outcome following resection of colorectal liver metastases.	BMC Cancer, 15: 840, 2015.
171				

小計11

合計170

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の主な内容・ 人を対象とする医学系研究倫理に関する倫理指針に基づいた研究実施における標準業務手順書を備えており、臨床研究の実施手順からインフォームドコンセント、申請にあたっての留意事項、委員会への申請方法、研究の実施など、臨床研究に関する一連の手順を記している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 6 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 規定の主な内容・ 公立大学法人横浜市立大学臨床研究利益相反委員会実施要綱により委員会の設置、所掌事務、組織、自己申告書の審査について定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年54回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
-----------------------	-----

・研修の主な内容

第1回 統合指針に基づいた研究計画書 作成のABCと審査のポイント

第2回 診療・臨床研究実施上の倫理の留意点

第3回 平成28年度の横浜市大研究倫理の新しい体制について

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学の研修プログラムは20を超す多彩なプログラムを有しており、大学病院の専門診療科及び専門別センターで高度で質の高い医療に従事することができる。また、協力病院を始めとした地域医療機関での研修によって、臨床研修に引き続きプライマリ・ケアを含めた幅広い研修も行うことができる。研修期間は3年間であり、専門医取得に向けた大きな一歩となっている。

2 研修の実績

研修医の人数	76人 (H28年3月実績)
--------	----------------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
中島 秀明	血液・リウマチ・感染症内科	教授	30年	
田村 功一	腎臓・高血圧内科	准教授	28年	
田中 章景	神経内科 脳卒中科	教授	29年	
寺内 康夫	内分泌・糖尿病内科	教授	28年	
前田 慎	消化器内科	教授	23年	
中島 淳	消化器内科 (肝胆膵)	教授	27年	
平安 良雄	精神科	教授	30年	
伊藤 秀一	小児科	教授	24年	
益田 宗孝	心臓血管外科	教授	30年	
遠藤 格	消化器・肝移植外科	教授	31年	
齋藤 知行	整形外科	教授	37年	
相原 道子	皮膚科	教授	35年	
矢尾 正祐	泌尿器科	教授	34年	
宮城 悦子	産婦人科	教授	28年	
水木 信久	眼科	教授	27年	
折舘 伸彦	耳鼻咽喉科	教授	28年	
井上 登美夫	放射線科	教授	39年	
藤内 祝	歯科・口腔外科・矯正歯科	教授	39年	
後藤 隆久	麻酔科	教授	29年	
村田 英俊	脳神経外科	准教授	22年	
中村 健	リハビリテーション科	教授	24年	
前川 二郎	形成外科	教授	30年	
市川 靖史	臨床腫瘍科・乳腺外科	教授	30年	
森村 尚登	救急科	教授	30年	
大橋 健一	病理部	教授	30年	
山崎 悦子	臨床検査部	准教授	25年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
管理責任者氏名	医療情報部長 根本 明宜
管理担当者氏名	医事課長 高橋 正海 / 総務課長 小田 英一

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各科
		処方せん	総務課・薬剤部
		手術記録	総務課
		看護記録	総務課
		検査所見記録	総務課
		エックス線写真	総務課
		紹介状	総務課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	総務課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	職員課
		高度の医療の提供の実績	医事課(病歴室)
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科
		高度の医療の研修の実績	各診療科
		閲覧実績	各関係部署
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課(病歴室)
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	総務課・薬剤部
掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

総務課サーバー室内のサーバーに電子データとして保存している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	職員課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	職員課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	職員課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	職員課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	職員課
		医療安全管理部門の設置状況	職員課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
		監査委員会の設置状況	※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	八景キャンパス総務課
職員研修の実施状況	職員課		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
閲覧責任者氏名	医療情報部長 根本 明宜
閲覧担当者氏名	医事課長 高橋 正海 / 総務課長 小田 英一
閲覧の求めに応じる場所	不定
閲覧の手続の概要 申込用紙（所属・氏名・ID・利用目的等）を提出し、内容を確認後、2週間を目途に貸出を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	—	件
閲覧者別	医 師	延	件
	歯 科 医 師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理の基本方針2. 医療安全管理のための組織体制3. 医療安全のための職員研修4. 報告および再発防止、レベル3b以上の事象が発生した場合の対応5. 患者さん・家族と医療従事者間の情報の共有によるインフォームド・コンセント6. 患者相談窓口7. その他医療安全の推進 本基本指針の改正	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (有・無)・ 開催状況：年24回 (安全管理対策委員会12回、リスクマネジャー会議12回)・ 活動の主な内容<ul style="list-style-type: none">安全管理対策委員会：院内医療安全の方針を協議決定リスクマネジャー会議：安全管理対策委員会の方針周知 リスクマネジャーによるグループワーク 安全課題検討	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年229回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：医療安全に関する講演会、TeamSTEPPS研修、新採用・転入者職員医療安全研修、人工呼吸器研修、その他医療安全に関する研修	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. インシデントシステムを用いた院内のインシデント報告の収集を実施2. 収集したインシデントの問題点を分析し対応を行う3. 職種横断的な対応が必要な案件は複数のリスクマネジャーによる事例の検討を行う4. インシデントの件数、事故報告等は医療機能評価機構へ報告し、広く情報共有する	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的考え方2. 委員会等の組織に関する基本的事項3. 職員研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. 院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療関連感染防止等についての検討2. 感染症発生状況の把握3. 感染症発生時及び防止のための迅速な対応を行うための審議・検討4. 感染対策マニュアル等の検討5. 環境ラウンド・感染対策推進部会の活動把握6. 分離菌、B S I、U T I、V A E、S S I の把握	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年70回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染対策の基本と院内ルール（eランニング）基礎的な抗菌薬療法について（全職員）2. 標準予防策 感染実習 感染管理・ミキシング、処置別研修（新人看護師・研修医）3. 手指衛生、療養環境整備について、抗菌薬について、U T I について、いい検体とは C V について（感染リンクナース会）4. 血液・体液曝露対策について、個人防護具着脱の演習、（感染対策推進部会）5. 清掃時の手指衛生のタイミング（清掃業者）6. 救急外来の感染対策、C R E の感染対策のポイント、手指衛生、療養環境調整と針刺し対策、抗菌薬について、療養環境調整について、冬の感染対策と標準予防策、C V についてなど（部署）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</p> <p>病棟別菌発生頻度、材料別発生頻度、主要分離菌の検出と推移など臨床検査部から感染症レポートを報告している。検査部からの院内感染対策が必要な耐性菌やウイルス疾患の検査結果判明時は感染制御部に連絡が入るが、I C T web のシステム上でも、感染症発生状況を随時把握し、対応している。また、部署での感染症発生時は、すぐに管理者から感染制御部に報告する。感染制御部は、必要時、ラウンド等で状況把握に努め、助言・指導し、院内感染拡大に努める。また、必要に応じて臨時感染対策委員会を開催し対応を検討する。</p> <p>・ その他改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 各部署にて、アクションプランを用いた感染対策の取組・ 手指衛生サーベイランスを病棟だけではなく、中央部門の実施・ 感染対策推進部会にて、血液体液曝露を減少に向け、勉強会とグループワークの取組・ B S I、U T I を減少させるため、看護技術の徹底、アンケート前後評価・ 療養環境の整備	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容 1. エラー防止に向けた処方オーダーについて 2. 薬剤部の役割 3. 麻薬の取り扱いについて 4. 抗がん剤処方について 5. 抗菌薬について	
② 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 業務の主な内容： 1. 手順書の一部改訂 ・ 特に安全管理が必要な医薬品（要安全管理医薬品）の保管管理について一部変更 ・ 血管外漏出で皮膚障害を起こす注射用医薬品の投与について一部変更 ・ PTPシート誤飲時の対応を追加 2. 手順書に基づく業務の実施状況についてチェックリストを作成し確認を実施	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 情報の周知 ・ オプジーボ点滴静注適正使用のお願い（劇症1型糖尿病について） ・ 「ノルバデックス」と「ノルバスク」の販売名類似による取り違え注意のお願い ・ 「ペグイントロン皮下注用」調整時の注意に関するお願い ・ 抗凝固剤・抗血小板剤の再開忘れ（医療安全情報No.114） ・ オプジーボ点滴静注適正使用のお願い（がん免疫療法との併用、間質性肺炎について）	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年92回
・ 研修の主な内容： 特に指定する8品目（①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置、⑤閉鎖式保育器、⑥診療用高エネルギー放射線発生装置、⑦診療用放射線照射装置、⑧麻酔器）の医療機器の安全使用に関する研修を年2回程度定期的に行い、新規導入医療機器は当該医療機器を使用する予定の者に対する研修を行い、実施内容を記録、医療機器安全管理責任者に報告する	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 （ ○有・無 ） ・ 保守点検の主な内容： 特に指定する8品目の医療機器のメーカーによる年間保守点検およびMEセンターによる定期点検の実施。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ○有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 厚生省ホームページ及びPMDA、メーカー通知等の情報を関連部署へ通知 2. 必要に対応した研修の実施 3. 簡易取扱説明書の作成及び機器への添付 4. DVDを作成し貸出 5. 学会等参加による情報収集	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ※別紙参照	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有（2名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ・担当者の指名の有無（有・無）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	○有・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（○有・無） ・規程の主な内容： 責任者、説明内容、説明者の条件、説明時の同席者、同意、説明同意書、診療録への記載等について規定している。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	○有・無
・活動の主な内容： 統括責任者が診療記録の管理に関する業務を行い、診療科部長および診療記録への記載を要する職種の当該部署の部門長が、各部署で記載する診療記録について、専門的な立場から診療記録の確認、指導を行い、改善に努める。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	○有・無
<p>・所属職員：専従（ 4 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名</p> <p>うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち事務職：専従（ 1 ）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>【統括安全管理者】</p> <p>（ア）病院の医療の質を推進する統括者として、病院長が指名する統括安全管理者（副病院長）を置く。</p> <p>（イ）統括安全管理者は、安全管理対策委員会の会務を統括する。</p> <p>（ウ）統括安全管理者に事故あるときは、あらかじめ統括安全管理者の指名する者が職務を代理する。</p> <p>【安全管理指導者】</p> <p>（ア）安全管理指導者は、医療安全管理室の室長として医療安全・医療管理学准教授が担当する。</p> <p>（イ）安全管理指導者は、次に掲げる業務について病院長を補佐してその役割を担うものとする。</p> <p>a 安全管理の指導、改善命令に関すること。</p> <p>b 安全管理に関する研修計画を策定すること。</p> <p>c 安全管理に関する情報収集を行うこと。</p> <p>d 安全管理に関するプロジェクトの推進及び安全管理指導者補佐の支援に関すること。</p> <p>e 院内の他の委員会に出席し、安全管理に関して調整をすること。</p> <p>f 事故が生じた場合、当該患者の安全確保及び応急措置に関すること。</p> <p>g 医事紛争に関し、情報提供及び意見を具申すること。</p> <p>h その他安全管理に関すること。</p> <p>（ウ）安全管理指導者は、安全管理に関する課題解決のためのプロジェクトを推進するためのリーダーとして安全管理指導者補佐を病院長に推薦することができる。</p> <p>【医療安全管理者】</p> <p>医療安全管理者は、病院長、安全管理指導者等からの指示により、次に掲げる業務についてその役割を担うものとする。</p> <p>（ア）医療安全管理室の業務に関する企画、立案および評価</p> <p>（イ）職員の安全管理に関する意識の向上および指導</p> <p>（ウ）安全管理に関するプロジェクトの推進</p> <p>（エ）院内の安全に関する相談および助言</p> <p>（オ）各部署間の意見調整</p> <p>（カ）その他の運営に必要な業務</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</p>	

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

- ・監査委員会の開催状況：年 回
- ・活動の主な内容：

- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 82 件（平成 27 年 12 月以降）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 68 件（オカレンス 58 件 3b 事例報告 10 件）
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容：横浜市立大学附属病院における安全管理対策の推進を図る。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有）（病院名：名古屋市立大学）・無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有）（病院名：名古屋市立大学）・無）
- ・技術的助言の実施状況

平成 28 年 9 月 13 日に名古屋市立大学へ立ち入り、9 月 23 日に当院の立ち入りを受けた。技術的助言の実施項目をヒヤリング形式で確認し、その後、現場ラウンドを実施した。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

「患者相談窓口」を設置しており、患者さんからの安全管理を含む受診、治療内容等に関する相談に看護師が対応している。相談内容については、必要に応じて医療安全管理室等関連部署と連携を行い対処している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

※経過措置の適用により、様式 8 「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

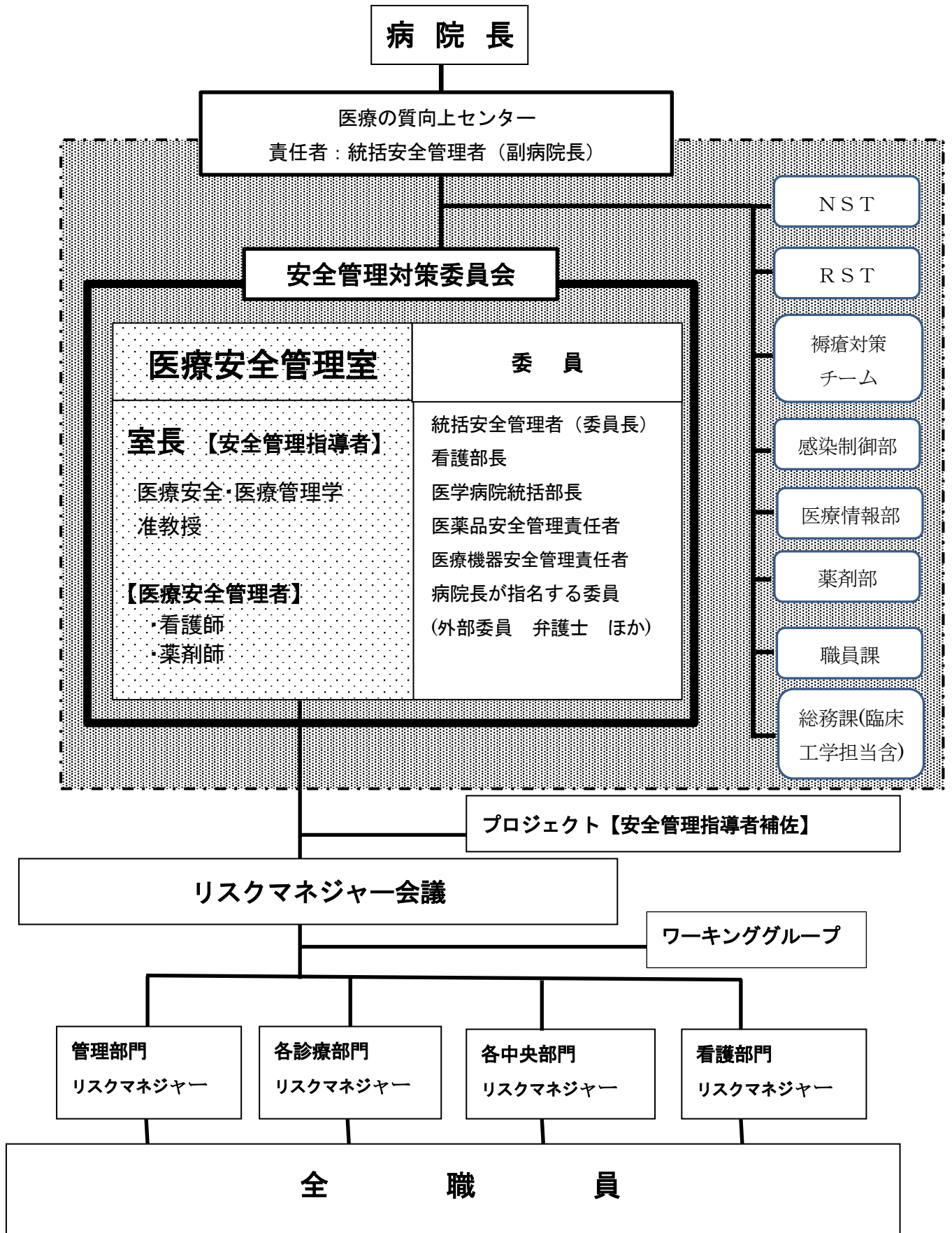
- ・研修の実施状況

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修
の実施状況

※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」
を参照

- ・研修の実施状況

横浜市立大学附属病院医療安全管理体制図



(様式第 8)

附 総 第 471 号
平成 28 年 9 月 8 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 公立大学法人横浜市立大学
理事長 二見 良之 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

統括安全管理者（副病院長）を配置している。（平成 12 年度付で整備済み。）

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

・ 医薬品情報の整理、周知及び周知状況確認の徹底

実施済み

・ 医薬品安全管理責任者による確認と指導

実施済み

・ 適応外、禁忌等の処方に係る確認及び必要な指導

医薬品安全管理責任者及び医薬品安全管理責任者より指名された担当者により、医薬品の適応外使用や禁忌使用について、情報の収集、把握、適切な使用に関する周知・指導等を実施する手順や仕組みを9月中に検討し、必要に応じて手順書に加える。適応外、禁忌の医薬品の使用については、現在の臨床（研究）倫理委員会に発議予定で該当する案件を抽出し、同時に医薬品安全管理者にも情報が集約され、把握される仕組みの構築が検討されている。（平成 28 年 10 月から運用開始）

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

インフォームド・コンセントのガイドラインを作成し、インフォームド・コンセントに係る統括責任者として副病院長（統括安全管理者）を配置することを明記した。また、各診療科部長を責任者として配置した。責任者は定期的の実施状況の確認・指導を行い、統括責任者に報告することを明記した。（平成 28 年 8 月）

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

インフォームド・コンセントのガイドラインを作成し、説明の内容、説明者の条件、同意者の条件、説明時の同席者、説明同意文書等の書式、診療録への記録等を明記した。また、ガイドラインを医療安全マニュアルに入れ、周知・活用する。(平成 28 年 8 月)

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

診療記録ガイドライン Ver.7 に診療記録の管理に関する統括責任者は医療情報部長とし、各診療科における具体的な内容確認等の責任者は診療科部長とすることを明記し、それぞれの責任者とした。(平成 28 年 6 月)

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

・入院患者全死亡症例の把握

平成 27 年 12 月より実施済み。

全死亡患者の死亡前 5 日分の診療録が院内システムを使用して安全管理室に報告され、安全管理者は、全診療録を確認している。

・死亡症例以外の処置または治療が必要になった症例報告

平成 28 年 4 月より実施済み。

インシデント報告 3b 事例として直ちに報告されるか、治療上の併発症として発生した場合にはオカレンスとして報告される。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

当院では、コンプライアンス推進規程第 24 条において大学としての内部通報制度を定めている。また、内部通報制度をポケット版安全管理指針に掲載して周知している。さらに、医療事故等に関するポストを医療安全管理室の入り口に設置し匿名で自由に通報できるようにしている。(平成 20 年 5 月 26 日付で整備済み。)

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握を行うための臨床指標を決め、定期的に評価を行う。現在は指標について検討中である。

医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置については、医療安全の研修として年間6回の講演会を開催し、全職員が年間2回以上参加するよう受講管理を行っている。平成27年度の講演会出席率も100%となっている。

また、職員の医療安全に関する意識調査と状況確認を目的としリスクマネージャーによる院内の安全巡回および職員へのヒアリングを2回/年実施。全職員対象の安全文化調査を1回/2年実施している。(平成29年4月から開始予定。)

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

部門の設置については、医療安全管理室を中心とした関係部署により、委員構成、規程整備、具体的な審議フロー等について検討中。

なお、現在当院で初めて行われる医療行為や国内未承認薬の使用など、標準的な治療として確立していない医療行為については、臨床倫理委員会にて審査を行っている。このことから、高難度新規医療技術評価委員会についても、臨床倫理委員会を所管している部署と、今後の流れについて調整を行っている。また、高難度医療技術実施後のモニタリング機能を強化することを目的に、専門職員を配置した「医療の質向上センター」の体制についても検討を行っている。

<部門構成案>

部門長 手術部門、外科系診療科 or 集中治療部門の医師から選任(兼任)

構成員 上記部門以外から医師2名(ハイリスクな医療の提供のある診療科・部門より)
看護師、事務職員(事務局:医療の質向上センター)

<委員構成案(評価委員会)>

※評価委員会は既設置の病院長を委員長とする臨床倫理委員会をベースに審査を行う。当該委員会に加えて、外科系診療科部長、医療機器安全管理責任者等を加えたメンバーで検討中。

<スケジュール>

平成28年10月 委員メンバー構成の決定

平成28年12月 具体的審議フローの策定

平成29年3月 規程の作成、運用開始

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

上記のとおり現在高難度医療技術導入プロセスの体制について院内関係部署で検討しており、具体的な体制が決定次第、速やかに部門を構成するメンバーによって、必要事項を定めた規程の策定作業に移行する予定。(平成 29 年 3 月)

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

未承認新規医薬品等担当部門についても、高難度新規医療技術導入のプロセスと同様に、関係部署において検討中。

<部門構成案>

部門長 医薬品安全管理者(薬剤部) or 医療機器安全管理者(臨床工学担当)

構成員 外科系、内科系、小児科、集中治療部門等から医師を選任(兼任)

看護師、事務職員(事務局:医療の質向上センター)

<委員構成案(評価委員会)>

※評価委員会は病院長を委員長とする臨床倫理委員会を活用する。これに加えて、外科系診療科部長、薬剤師を加えたメンバーで検討中。

<スケジュール>

平成 28 年 10 月 委員メンバー構成の決定

平成 28 年 12 月 具体的審議フローの策定

平成 29 年 3 月 規程の作成、運用開始

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

上記のとおり新規未承認医薬品導入プロセスの体制について院内関係部署で検討しており、具体的な体制が決定次第、速やかに部門を構成するメンバーによって、必要事項を定めた規程の策定作業に移行する予定。（平成 29 年 4 月 1 日から開始予定）

13. 監査委員会を設置するための予定措置

委員構成は 5 名として、内部委員 2 名と外部委員 3 名で構成。

外部委員は、下記 3 名を予定している。

医療安全管理に明るい他大学病院の医師（委員長）

…医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

②医療に明るい弁護士

…医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

③院内ボランティアスタッフ

…医療を受ける者その他の医療従事者以外の者

内部委員は、下記 2 名を予定している。

①医学部長

②副局長

【今後の予定】

平成 28 年 9 月 監査委員会の要綱策定

平成 29 年 2 月 第 1 回監査委員会の開催

平成 29 年 3 月 第 1 回監査委員会の結果をホームページ上で公表

平成 30 年度以降は年に 2 回委員会を開催する。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

今年度については名古屋市立大学と連携して相互に立入りを行うこととした。今年度は 9 月 13 日に名古屋市立大学、9 月 23 日に当院に立入りをし、技術的助言を遂行する予定である。

次年度以降は国立大学、公立大学と実施方法を調整していく予定。

15. 職員研修を実施するための予定措置

当院では医療安全講演会（研修会）を年6回開催しており、医療安全の基本的な考え方やインシデント事例を踏まえた具体的方策・改善策等に関する研修を実施している。各講演会では参加者アンケートを実施しており、学習効果の測定も合わせて行っている。

今後、少なくともこの安全講演会のうち1回を立入検査、監査委員会、ピアレビューの指導事項等にかかる情報共有や改善策を検討・推進する機会として活用して行く。（平成28年度中に実施）

多職種による連携と協働を推進するための取組としては、26年度から TeamSTEPPS 研修を開催しており、これまでにのべ21回、1,600名の教職員が参加している。今後も新入職者を中心に、当院で働く全ての教職員が受講できるように、定期的（年数回）に開催して行くほか、多職種協働をテーマとした研修を実施して行く。

また、イーラーニングシステムの活用を拡大させて、研修コンテンツの充実やフォローを図りつつ、新たに「研修委員会」を設置するなど、病院として研修受講歴の一元的な管理を進めて行く。（研修委員会の設置は平成28年10月予定）

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

関東信越厚生局が主催している研修へ平成28年12月に病院長が参加予定。医療安全管理責任者、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者については平成29年度以降に参加予定。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち事務職：専従（1）名（嘱託）

平成25年より現行の体制。

医師複数による体制とするか平成30年3月までに検討予定。

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

項目17のとおり、整備済み。（平成25年4月）